

AIS 新日本スポーツ連盟附属スポーツ科学研究所

第16回

オンライン研究会

参加無料

個人報告 10:00~11:30

中村 英仁 (一橋大学商学部准教授)

日本のエリートスポーツが抱える課題に対する
経営学的アプローチ

シンポジウム 13:00~15:50

山崎 健 (新潟大学名誉教授)

問題提起・パフォーマンスと
トレーニングの構造を探る

綿引 勝美 (鳴門教育大学大学院特命教授)

トレーニング科学 ~パフォーマンス・トレーニング・試合~

【日時】

2023年5月27日(土)

9:50 ~ 16:00 <9:30受付開始>

【開催方法】

Zoomによるオンライン研究会

【申込方法】

下記の事務局メール(または電話・FAX)で「お名前」「メールアドレス」「電話番号」を事務局に伝えて、お申込みください。後日、Zoomの入室アドレスをお送りします。

事務局メール **science@njsf.net**

TEL 03-5834-8726 FAX 03-5834-8723

シンポジウムテーマ

トレーニングの
リアリティを探る

その1

開催の趣旨

スポーツ活動において、パフォーマンスの安定化やその改善を目指すことは、そのスポーツの持つ固有の「楽しさ」「達成感」「充実感」「幸福感」といった肯定的な感情の醸成に貢献する。故にそのために行われるスポーツ・トレーニングの理論と方法は、科学的諸原則によって構成された「トレーニング効果」を保証することが求められ、長期間にわたる実践と実証が繰り返されてきた。

しかし「パフォーマンス改善」と「トレーニング効果」との関係は極めて複雑かつ個別的・限定的でありその実体はある意味では「多様な解釈が成立」する。このことが、指導者側からの根柢の薄い「精神主義」や「無意味なトレーニングの強要」など

によってもある程度の「効果」を生みだしてしまうこととなる。「精神主義」「ハラスメント」「暴力容認」など好ましくならぬ「トレーニング手段の強要」は、時に選手の人権問題として顕在化して問題視されるが、未だに顕在化してはいない不都合な諸問題が後を絶たない背景にはこの「個別性」「限定性」が未だ十分に解明されていないことにその要因があるものと考えられる。

本シンポジウムでは、このパフォーマンス改善を実現する「トレーニングのリアリティ」についての「理論的合理性」の解明を目的とし、今回は、「総論的」なアプローチから問題を提起し、次回は「各論的」なアプローチとしての個人競技や集団競技のトレーニング方法を検討する。